

かつての勤務校では、子供も教師もワークショップの一つとして、一グループ5人程度のワークショップをメンバーを代えて2回行っていた。その後、全員でワークショップを20分間行う。参加者は、一人40秒以内で自分の意見を述べる。全体会では、ワークショップで学んだことを全員が発表する方法をとった。HRや道徳や研究協議会で取り入れていた。また、子供たちには「ノート展覧会方式」でも周りの意見を参考にさせていた。

～ワールド・カフェは1995年にアニータ・ブラウンとディビッド・アイザックスによって始められました。メンバーの組合せを変えながら、4～5人単位の小グループで話し合いを続けることにより、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られる会話の手法です。その名が示すようにカフェのような、リラックスした肩の凝らない雰囲気ができやすいことから、プロジェクトやチームの、様々な利害関係者の新しい関係作りを進めていきたい場面などに使われることも多いようです。～（香取一昭・大川恒 著「ワールド・カフェをやろう！」）

1 ワールドカフェ方式の方法

①4人一組で席に着く

ひとつのテーブルに4～5人（原則4人）が座る。この人数だと、話す時間と聞く時間のバランスがとりやすく話し合いの手法としてワールドカフェ形式が活きてくる。なお、議論のテーマはどのテーブルも同じである。

②紙に意見やアイデアを書く

テーブルの真ん中にそれぞれ用紙が置いてある。そこに議論の中で浮かんできた疑問やアイデアを自由に書き込んでいく。このような方法で行えば、移動してきた人もその前にどんな事が話されていたのか分かりやすく、意見も出しやすくなる。

③一定時間で1人を除き席を移動する

20～30分程度の話し合いを数ラウンド行う。そしてラウンドが変わるごとに1人を残して全員が他のテーブルにそれぞれ移動する。この方法であれば、ラウンドごとに別のテーブルの話し合いに参加できる。残った一人は移動してきた人にそのテーブルで進んだ話の内容を伝えた後、議論を行う。

④参加者全員で情報共有をする

最後は全体で情報を共有する。特に、同じ意見になった点について、より深く掘り下げる。ワールドカフェ方式は、答えを出す事をゴールにした話し合いの方法ではない。参加者がオープンに会話をし、新しいアイデアや知識を生み出すのが目的である。

2 ワールドカフェ方式の効果

ワールドカフェ方式は、話しやすい環境で参加者が口を開きやすいという点だ。大人数の前で発言するよりも、少人数の前で発言しやすいからだ。また少人数で距離が近く、話を聞いてもらいやすい環境のため、自分の意見を言いやすいという効果もある。また、相手との繋がりを意識できることだ。ワールドカフェ方式はディベートのように否定される事はない。自分素直な意見を否定されず、尊重されるのでより対話が活発になる効果がある。相手の意見を聞き、繋がりを意識しながら自分の意見を伝えられるので場の一体感を感じとることが出来る。更に、参加者全員の意見や知識が共有できることだ。テーブルを移動するたびに、直接でなくても、先に議論をした人達の意見を知ることが出来るという効果がある。これは移動の回数が増えるごとに効果が増す。テーブルでは少人数で話しているにも関わらず、多くの人との意見交換や知識の共有ができる。

3 留意点

ワールドカフェ方式の方法は、テーブルあたりの人数が6人以上だと議論が活発にならない。リーダーや進行役がいれば自由な発言をしにくく、活発な意見交換が阻害されてしまう。テーブル毎にテーマが違えば、移動してきた参加者は意見を出しにくい。そしてワールドカフェ方式が始まる前に、最後に結論を発表してもらうといったアナウンスがあると、何か結果を形にしなければと、やはり自由なアイデアは生まれにくくなってしまう。

「参考資料:キャリアパークのビジネス書」

*校内研修事後協議会や教科指導でこの方式をとることが出来る。試してみる価値がある。

C ～課題 (Tが提示) に繋がる内容「例 (スマホ)」を話し合う～

C 1枚の付箋紙に一つの考え書く。(付箋紙は一人2～3枚(10センチ×5センチ))

- ・付箋紙に書いた内容を順に発表しながら学習グループで出し合い、考えを共有し合う。
- ・付箋紙を画用紙に工夫して貼る（K J 方法）
- ・相手の意見を聞いたら、自分のペンで相手の付箋紙の外に書き込む。

- ・グループでホストを1名を決め、その人は残る。他は、ゲストとして違うグループに行き、新しく集まった人
どうして議論をする。
- ・画用紙（A3）を真ん中に置き、まずは全員で眺める。
- ・テーブルホストが、先程のグループで話し合った内容を説明する。

＊ここで課題に立ち返り、**自分に置き換えて考えたことの結論**やその根拠や理由を出す。

- ・話した人から、付箋の外に意見を書き込む。（ペン色を変える）

- ・再度同じテーブルに戻る。
- ・自分の意見を言った人から、違う色のペンで自分の付箋や仲間の付箋に書き込んでいく。

- ・教師は、本時の課題を再度紹介する。
- ・課題に対するグループ考えを短冊1枚に書く（30センチ×50センチ）。
- ・グループの画用紙と短冊を黒板に貼る（1本にまとめない）。
- ・学習リーダーが短冊を紹介し、全員で共有する。

~~~~~ここで終わる~~~~~

- ・課題に対するまとめを書く（課題のキーワードをもとに自分で価値づける）
- ・振り返り（自分なりに学んだこと、仲間から学んだこと、新たにやってみたいこと）